

埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在69か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

えのきど・すわはらいせき 榎戸・諏訪原遺跡第9地点

調査地：朝霞市岡一丁目地内

期間：令和2年10月26日～11月13日

調査面積：230.60㎡

◆今回の調査では、縄文時代の土坑15基、ピット13基と平安時代の住居跡1軒が確認されました。

遺物は、縄文土器、平安時代の土師器や須恵器、金属製品が出土しました。

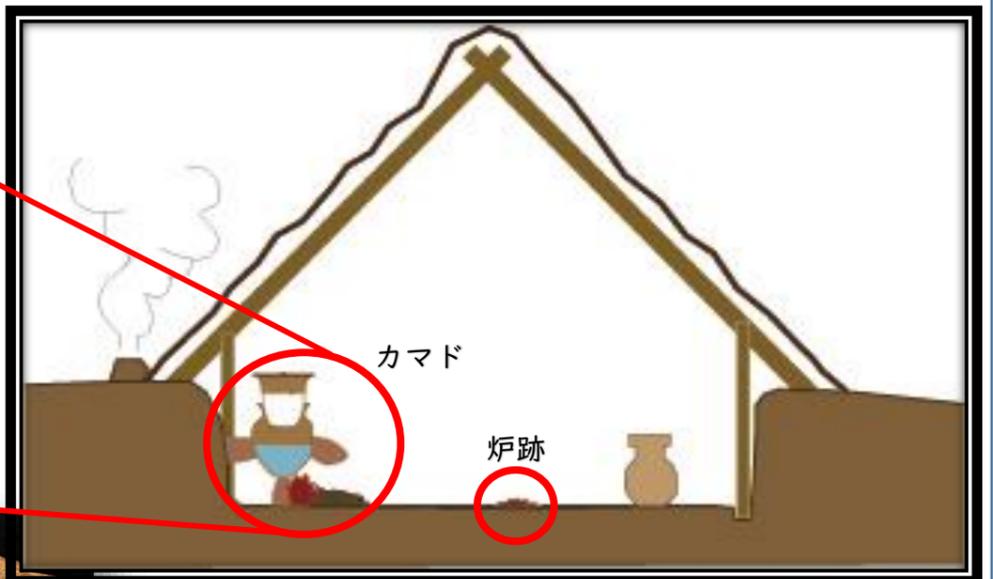
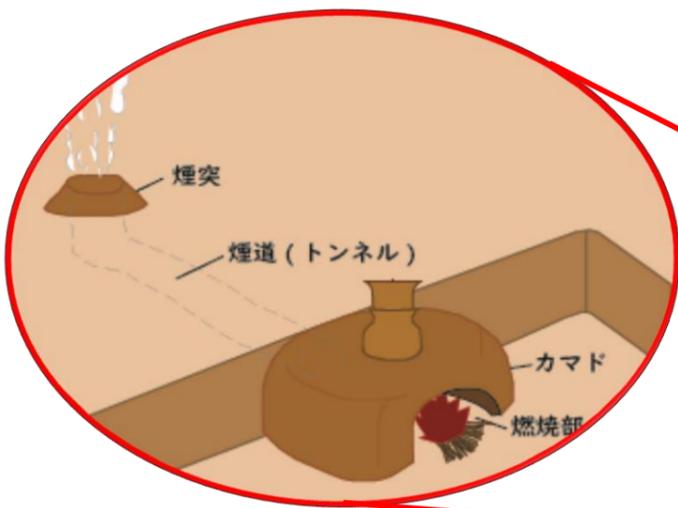
平安時代の住居跡で、遺物の様相から9世紀代と考えられ、南北にやや長い長方形の形をしていました。

東壁の中央部にカマドが造り付けてあり、住居跡内のほぼ中心部に炉跡と考えられる土が焼けた跡も見つかりました。炉跡の周囲から台付甕の破片や鉄滓（鉄を製錬する際にでる不純物）、刀子（現在でいう小型のナイフ）といった金属製品の出土も見られたことから、鍛冶を行っていた可能性も考えられます。

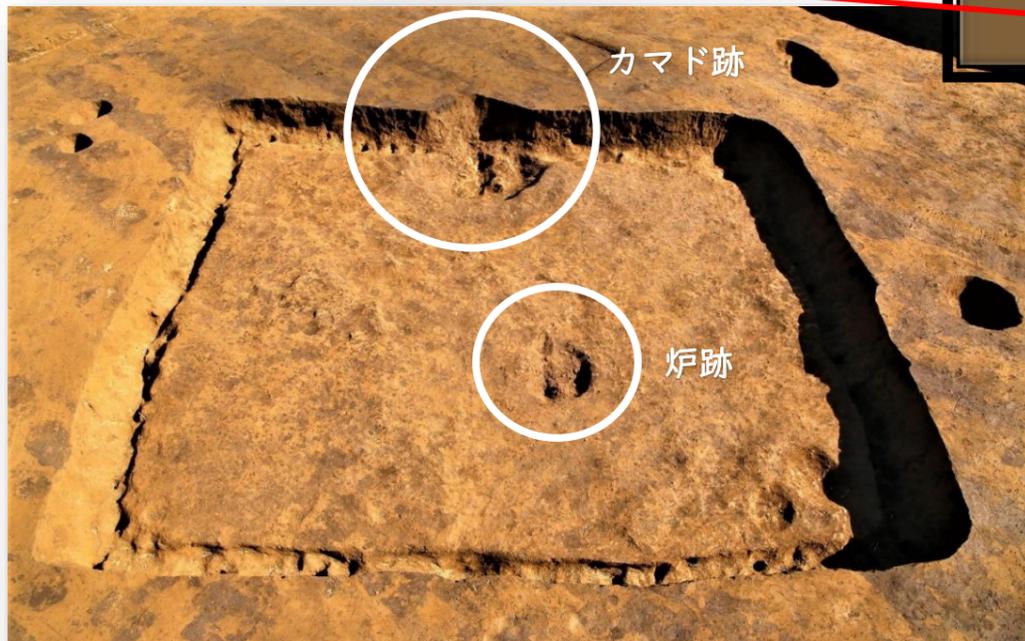
榎戸・諏訪原遺跡では、ほかの発掘調査地点からも同じ平安時代の住居跡が複数軒見つかっていることから、当時代には、村が形成され、人々が生活を営んでいたことがわかります。



榎戸・諏訪原遺跡第9地点 位置図



竪穴住居復原イラスト(想定)



検出された平安時代の住居跡



出土した金属製品(刀子)

どんな生活をして
いたのかな？

